

## 巻 頭 言



福島県知事 内堀 雅雄

# 東日本大震災からの復興の現状や 福島ならではの魅力を粘り強く発信

令和6年3月11日で、あの東日本大震災から13年が経過いたします。

福島県は、地震、津波、原子力発電所の事故という、世界でも類を見ない複合災害に見舞われました。しかし、県民の皆様のとゆまぬ御努力と国内外から頂いた多くの温かい御支援により、着実に復興の歩みを進めております。これまでの皆様からの御支援に改めて厚く御礼を申し上げます。

この間、福島県では、インフラの復旧や放射性物質の除却が進み、原子力発電所事故に伴う避難指示区域は大幅に縮小し、全ての市町村において住民の居住が可能となりました。また、食の安全に関する徹底した取組により、本県産農産物の輸出量は震災前の水準を超えるなど、これまでの取組が一つ一つ成果となって現れております。

一方、海外では、ローマ字のFUKUSHIMAに対するイメージが、震災直後のままで止まっている地域も少なくありません。

このため、本県に対するイメージや情報をアップデートしていくことが重要であり、これまでも、SNSなどのメディアの活用はもとより、各国の駐日大使など海外の要人に本県を視察いただいたり、首都圏で本県の復興状況を紹介するセミナーを開催するなど、情報発信の取組を粘り強く続けてまいりました。

また、新型感染症が落ち着きを見せる中、昨年には、私自身が米国やドイツなどを訪問し、両国の政府関係者等に対し、復興の現状や挑戦を続ける福島の今をお伝えするとともに、県産米や国内外で評価の高い県産日本酒をPRしてまいりました。

こうした取組や外務省を始めとした国の支援により、これまで原発事故以後55の国・地域において本県産等食品の輸入規制が措置されていましたが、昨年8月には、欧州連合やスイスなどが規制を撤廃し、輸入規制を行っている国・地域が7つにまで減少したことは本当に嬉しいニュースとなりました。

FUKUSHIMAに対するイメージを刷新し、更に福島県の復興を進めていくためには、今後も、諸外国の政府関係者を始め、現地のより多くの方々に対して、復興が進む福島の姿とあわせて、福島ならではの美しい自然や奥深い歴史・伝統、食などの魅力をあらゆる機会を捉えて積極的に発信していくことが重要であります。

そして、多くの方々実際に福島に「来て」、福島現状を「見て」、福島復興や様々な魅力を「感じて」もらえる取組を進め、本県に対する理解と共感の輪が広がるよう、粘り強く取り組んでまいります。